

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス スマイル		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 12日		2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 4日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用する子どもたちにとって、視覚的にわかりやすい構造化となるよう過ごしやすい環境作りに努めていること。	黒板を活用して一日のタイムスケジュールを誰が見てもわかりやすくなるよう、時間・内容・担当・グループなどにイラストを用いた工夫を意識的に行っている。	一日のタイムスケジュールに限らず、自分の持ち物管理や使用した遊び道具やカードなど、使ったものはどこへ片づけるのか、整理整頓・自己管理により特化した視覚的構造化に努め、さらに充実した環境となるための取り組みを行う。
2	子どもたちのその時々への思いへ柔軟に対応し、活動内容の変更や自己選択できる場づくりの工夫を行っていること。	予め決められた活動をこなすことにこだわることではなく、その時出された子どもたちの意見や思いへ柔軟に対応し、これならできる、こっちは頑張りたい、という思いから自己選択できる場づくりの工夫を意識的に行っている。	今後も引き続きその時の思いに応じた自己選択の場づくりを行うと共に、誰もが「こうしたい、という思いの自己発信がしやすい環境作りの工夫にも意識を赴き、さらに充実した環境となるための取り組みを行う。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間での情報共有が十分ではない部分があること。	会議や地域との連携・計画内容等について、一部の職員は把握しているが、全体としての共有が不十分であり、把握しきれていない職員がいることが課題の要因である。	一部の職員が把握していれば良いではなく、職員全体として認識の違いが生じないよう十分な共有を図る改善を行う必要がある。
2	職員数の関係により、状況によっては十分な支援体制を維持することが難しい時があること。	職員数の関係により、急な休みが生じた場合の人員配置が、状況によっては十分な体制であると言えない日が生じてしまうことが課題の要因である。	急遽、職員の休みが出た場合でも、十分な支援体制を維持し続けられるよう、同事業間での連携を図り、職員間でも業務分担や連携の工夫を行い、日によって支援体制にバラツキが生じないよう安定した支援体制の確保を行う必要がある。
3	地域の人との交流機会が限られており、地域の人との交流や繋がりが少ないこと。	事業所内での活動が中心となり、実際に地域の放課後児童クラブや児童館の子どもたちと交流する機会を設けてこなかったことが課題の要因である。	公園や図書館などの公共の場にて出会う地域の方々や年1回の交流祭などのイベントの場を継続的に活用し、日常的な支援の中でも地域との関わりを意識した取り組みを行う必要がある。